

民法論綱緒論

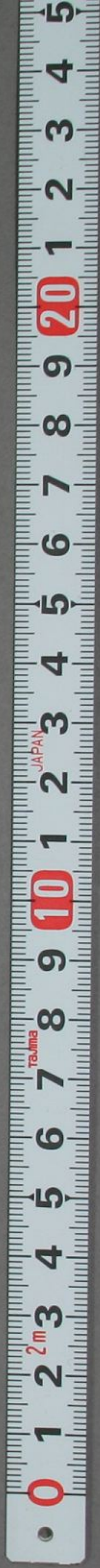
島田三郎重譯

全

1

和装本

711
888



瑞西ヂユモーン原著
日本島田二郎重譯

民法論綱緒論

明治十二年五月刊行

東京書局
學校圖書

711
888

緒言

予曩キニベンサム氏ノイシヨシヨシノ中ニ就テプリンシプルス、オフレジス、スレイシヨシヨシヲ譯シ名ケテ立法論綱ト云フ其民法ノ部ハ何礼之君先キニ既ニ之ヲ譯セリ今並ニ世ニ出ヅ刑法ノ部ハ林董君ノ譯アリテ將サニ全ク成ルニ至ラントス三部ヲ合セテ始テ原本ノ一團圓トス然ルニ原書ニハ其民法論ノ前ニ於テ筆述者ヂユモーン氏ノ記シタル一篇數葉ノ文アリ要スルニ民法論ノ緒言タルニ過

明治十二年八月九日
島田二郎

緒言

ギズシテ故ラニ單行スベキ者ニアラズト雖
 之ヲ缺ケハ則チ三書モ亦竟ニ完璧ニアラズ予
 自ラ無似ヲ揣ラス敢テ之ヲ譯出シテ以テ先輩
 ノ遺漏ヲ補ヒ之ヲ立法論綱ノ後民法論綱ノ前
 ニ附シ題シテ民法論綱緒論ト云フ批據前ニ在
 ルノ譏ハ必ズ免レザル所ナラン然レドモ此ニ
 由テ本書ノ首尾全備スレバ則チ讀者ニ於テ或
 ハ小補無ンバアラズ

明治十二年二月

島田三郎誌

民法論綱緒論

島田三郎 譯

法律諸科ノ中ニ就テ世ノ最モ忽視スル所ノ者
 ハ民法ナリ故ニ法學ヲ以テ専門ノ職業トナシ
 研究セザル人ハ之レニ注意スル者蓋シ甚タ稀
 ナリトス此レ是レ評語タルヤ未ダ之ヲ包盡ス
 ルニ足ラズシテ實ニ民法ハ一科ハ人ノ嫌忌ス
 ル所トナル者ノ如シ夫ノ經濟ヤ刑法ヤ政理ヤ
 此ノ如キ諸學ハ皆能ク世人好奇ノ心ヲ動シテ

盛ニニ考察ノ論題トナリ既ニ多年ヲ經タリ且
 ツ有名ノ著作前後續出シ以テ此學科ヲシテ世
 ニ尊重ナラシメ人若シ此レニ通曉セズ此ガ定
 説ヲ有スルコトナケレバ己レ世人ノ後ニ瞠若ク
 ラザルヲ得ザルヲ以テ其學習最モ必要トナリ
 タリキ然ルニ之レニ反シテ民法ハ一科ハ纔カ
 ニ法學士林ノ狹境ニ局セラレテ其ノ範圍ハ外
 ニ行ハレズ故ニ民法注釋家ハ對立スル他ノ諸
 學士ノ側ニ屏息シ頭ヲ書庫塵堆ノ間ニ没シ昏
 タトシテ瞠睡シ世人ハ民法家中分立スル所ノ

宗派ノ名称ダモ尚ホ之ヲ知ラザルニ至リ夫ノ
 法律全書普通法學人王書ノ如キ盛大ノ美名ヲ題
 シタル汗牛ノ冊充棟ノ編ヲ東閣暗敬シテ之ヲ
 不論ニ置ケリ

世人一般此學ヲ嫌フテ之ヲ學ビ肯ゼザルハ別
 事ニ由テ然ルニアラズ是レ從來民法ヲ論ズル
 ノ方法以テ之ヲ致セルノミ其諸ノ著作ノ法律
 學ニ於ケルヤ恰モ夫ノ經驗理學未ダ起ラザル
 ノ前ニ於テ中古學士（按）中古學士トハ希臘ノ學
 士エリストトリノ學
 家トモテ中古ノ理ノ書ノ究理諸學ニ於ケル
 學家神學家ヲ總稱ス

ト一般ナリキ人或ハ此等ノ書ノ無味曖昧ナル
ハ此學科ノ性質然ラシムルナリト云フト雖是
蓋シ其著書ノ非ヲ寬恕シテ厚キニ過ル者ナリ
然ラバ則チ民法ニ論ズル所ノ趣意ハ果シテ如
何ナル者乎曰民法ハ人類ノ利害ニ最モ切中ス
ル諸事ヲ論ズル者即其安固其財權其相互日常
ノ處辨其父タリ其夫タリ其子タルノ關係ニ於
ル家内ノ位地ヲ論ズル者ニシテ權利義務ハ乃
チ此ニ生ズルナリ何ゾヤ法律ノ諸ノ目的ハ悉
ク此兩語ヲ以テ括盡シテ判然明白ナルヲ得而

熟讀スベシ
民法ノ趣意

シテ別ニ一ノ神秘解ス可ラザル者アル無レバ
ナリ

要スルニ民法ハ唯ダ觀テ異ニスル刑法ノミ民
法ヲ外ニシテ刑法ヲ解スル能ハズ刑法ヲ外ニ
シテ民法ヲ解スル能ハズ權利ヲ定立スルハ許
可ヲ與ヘ禁止ヲ出スナリ一言以テ之ヲ解スレ
バ罪科ヲ創設スルナリ私罪ヲ犯ストハ吾人が
私個人ニ對シテ其義務ヲ破ルニシテ即チ其
私個人ガ吾人ニ對シテ己ガ有スル所ノ權利ヲ
侵サルトナリ公罪ヲ犯ストハ吾人が公衆社

熟讀スベシ

會ニ對シテ其負フ所ノ義務ヲ犯ストニシテ即チ公衆社會ガ吾人ニ對シテ受有スル所ノ權利ヲ侵サル、トナリ其レ然リ民法ナル者ハ唯觀ヲ異ニスル刑法ノミ今其權利ヲ與ヘ義務ヲ科スルヨリシテ法律ヲ觀察スルハ則チ民法ノ點ヨリスルノ見解ナリ若シ其侵サレタル權利若シクハ其破リタル義務ニ關シ法律ノ効權効力ニ就キ之レヲ觀察スルハ則チ刑法ノ點ヨリスルノ見解ナリ

然ラバ則チ民法主義ト云フハ如何ノ意義ナル

乎曰法律ノ當ニ然ルベキ所以ノ理由ヲ明言スル者ニシテ即チ立法者ヲ誘導シテ其私個人々ニ與フルノ權利ト之ニ科スルノ義務トノ分劑ヲ為サシムル真理ノ學是ナリ

吾人ハ道理ヲ基脚トナシテ法律ヲ設立スルヲ旨トセルノ書ヲ法律文庫ニ就テ徧ク搜索スト雖氏遂ニ其一卷ヲモ獲ルトナクシテ徒勞ニ歸シタリキランデー(按佛國ノ著セル民法理論ハ大ニ望ヲ屬スベキガ如シト雖氏其實ノ書名ニ副ハザルヤ遠キト甚シ此ノ書ノ言フ所ハ不良

心ニ制セラル、所ノ妄想ヨリ發生セル者ナリ
 ランゲールハ自由ト云ヒ仁慈ト云フ者ヲ視ル
 恰モ自己ヲ困苦セシメテ真ニ厭惡スベキ怪物
 ノ如クシ、諸政府ヲ舉テ之ヲ東洋壓制ノ範圍ニ
 投ジテ其自由仁慈ノ思想ヲ悉ク除却セント欲
 シタリ

法律學ノ爭議紛然タルガ為メニ法律學徒ノ中
 ニ在テスラ尚ホ不信者ノ一種ヲ生ジ其徒ヲシ
 テ法律ナル者ハ主義ヲ有スル者ナルヤ否ヲ疑
 ハシムルニ至レリ此人々ノ思考ニ據レバ法律ハ

熟讀スベシ

徹頭徹尾恣意專斷ニ定マルナリ法律ノ善良ナ
 ルハ其定リテ法律ニナリタル所ニ在リ何ント
 ナレバ決令ハ如何ナル者タルニ關セズ平和ノ
 大利益ヲ生スルガ故ナリト云ヘリ此ノ解説タ
 ルヤ真理ヲ有スル至テ少クシテ誤謬ヲ有スル
 極メテ多シ然リ而シテ實利ノ主義ハ能ク法律
 ノ此部分按民法指他ノ諸ノ部分トニ普通スル
 ハ後ノ本文ニ就テ之ヲ見ルヲ得ベシト雖氏其
 之ヲ適用スルハ至難ニシテ其人性ノ如何ヲ親
 知スルヲ必要トスルナリ

以下熟讀スベシ

民法論綱要

卷

ベシサムガ法學ヲ研究スルノ間ニ方リ首メテ
 其心ヲ動カシ、感念ハ諸ノ疑問ヲ説明スルニ
 使用シ来レル自然ノ權利原始ノ約束道義ノ感
 情正邪ノ意思ノ如キ子テユラル言辭ハ其基礎ヲ求ムルニ
 唯是レ夫ノロツク按英國ノ痛切ニ其ノ虚偽
 タルヲ指摘シタル所ノ中心ノ思想ニ外ナラ
 ストノ考察ナリキベンサム又學者皆不正ノ吟
 域ニ展轉シテ其範圍ヲ出ザルヲ看破シベ
 コシ、ニートン按二人ハ英國最ノ推理法ニ通熟
 シ之ヲ取テ立法學ニ轉用シ立法學ヲ經驗ノ一

學科トナサント決志セリ定説ノ外形ヲ現スル
 套語ハ皆之ヲ却ケ苦樂ノ感情ヲ表セザル言辭
 ハ皆之ヲ廢セリ例ハ財産權ハ固有ノ權利ナ
 リ自然ノ權利ナリ等ノ語ヲ襲用セザルガ如シ
 此レ是ノ套語ハ一事ヲ説明セズ一物ヲ證徴セ
 ザルヲ以テナリベンサムノ觀察ニ因ルニ正ト
 云ヒ不正ト云フ套語モ亦諸ノ疑問ヲ昭破スル
 ノ効ナク却テ之ヲ臆定スルノ患アリテ其不便
 ナルヲ前例ニ異ナラズベンサムノ一法律ヲ設
 立セントテ公言スルヤ敢テ夫ノ自然法ニ符合

民法論綱要

卷

六

熟讀スベシ

スルノ法律ヲ發見セリト聲言スルヲナク又未
成ノ事ヲ以テ既成ノ事ノ如クシテ人ヲ眩スル
普通ノ詭計ヲ用キザルナリ其義務ヲ説明スル
ヤ奇異不測ノ冥理ニ迷没スルヲナク又毫末モ
假定ノ説ヲ用キルヲナシ彼又義務ヲ明示シテ
以為ラク大凡ノ義務ナル者ハ往キニ他人ヨリ
受ケシ勤勞ノ報酬ノ為メニ生ズベク或ハ甲人
ヲ利益スル為メニ他人ニ科スルノ義務ハ其甲
人ニ取り須要ニシテ缺ク可ラザル者タルヨリ
シテ生ズベク按父母其幼兒ヲ育成スル義務ノ
如キハ兒子ノ為メニ須要ナルガ

故ニ父母ニ此義務ヲ而シテ其効力ハ皆其實利
科スルガ如キヲ云アルガ為メニ生ズト此ノ如ク常ニ經驗ト觀察
トニ根據シ其法律ニ於ケル唯法律ガ夫感情ヲ
有スル生物タル人類ノ能力ニ生ズベキ効果ヲ
觀察スルアルノミ又常ニ痛苦ヲ避クベキ者ヲ
以テ眞價アル唯一ノ議論ト認メタリ
當時ノ民法學士常ニ假認按原語ヲキクシヨビト
云フ今譯シテ假認ト
スル者ハ有テ認メテ無ト為シ或ハ無テ認メテ
有トスル如キ法律上ノ一種假作的ノ認定ヲ云フ
下文ニ列載スルヲ基礎トシテ理論ヲ立テ其假
諸例ノ見ルベシヲ基礎トシテ理論ヲ立テ其假
認ニ與フルニ實有事ノ如キ効力ヲ以テセリ例

民法論綱首命

七

へバ嘗テ成立タザル所ノ條約ヲ認許シテ條約
 ト為シ又成立ノ外觀スラ尚ホ存セザルノ準約
 ヲ認許シ（按準約トハ相互ノ條約當テ存セザル
 一其一方ヲ利スルガ為メニ他ノ一方
 ヲ緊束ス或ハ準死ヲ認メ（按法律生人ヲ認メテ
 死クルノ如クシテ社會ノ
 ル云フ其權利ヲ失ハシムルヲ云ハクシテ自然死
 外ニ出シ其權利ヲ失ハシムルヲ云ハクシテ自然死
 追放、法外ノ驅逐ノ如キ其例ナリ或ハ自然死
 ヲ許サズ即チ曰ク某々ノ如キ死人ハ死セルニ
 アラス、某々ノ如キ生人ハ生セルニアラス或ハ
 不在人ヲ認メテ現在人ト做シ或ハ現在人ヲ認
 メテ不在人ト做シ領地ヲ其現在ノ地ニアラス
 ト為シ國土ヲ其現有ノ人民ニ屬セズト為シ或

ハ生人ヲ以テ物ト為シテ權利ヲ有セシメス或
 ハ物ヲ以テ生人ト為シテ權利ヲ有セシメ又義
 務ヲ負ハシム或ハ常ニ期滿移權ノ行ハレタル
 事ヲ以テ期滿移權スベカラズト認メ或ハ讓移
 セラレタル者ヲ以テ讓移ス可ラザルノ權ヲ認
 ム而シテ烏有事ヲ其眼中ニ幻出スルヲ却テ真
 有事ヨリ明カナラシムルヲ得タリ此ノ如キ
 假認ヲ排除セヨ、否ナ、此ノ如キ偽妄ヲ排除セヨ
 此等ノ律學者ハ茫然其身ノ所在ヲ知ラズ彼レ
 等ハ其常ニ此ノ如キ偽妄ヲ挺杖トシテ立脚ス

ルニ慣ル、ガ故ニ之ヲ去レハ毫モ自ラ支持立
論スル能ハザルナリ然ルニベニサムハ此失笑
ス可キ兒戲ノ議論ヲ一切撤去シ又一箇隨意ノ
假定ヲ容サズ一箇專斷ノ釋義ヲ須キズ事實ヲ
表スルニアラザルノ一理由ヲ用キズ法律ノ善
効惡効ヨリ導カザルノ一事實ヲ用キザルナリ
ベニサムガ民法ノ面目ヲ豹變シテ一新科學ト
ナシタルハ斯ノ推理ノ論法ヲ用キタルニヨレ
リ夫ノ民法古學派ノ説ニ陶冶セラレタル人ヨ
リ之ヲ見レハ其唯新説タルノミナラス實ニ奇

怪タルヲ免レ然リト雖モ未タ嘗テ偽學ニ誘
惑セラレザル人ヨリ之ヲ見レハ簡約ニシテ自
然ナル者ナリ唯簡約自然ナルノミナラズ又目
ニ熟シ耳ニ順フ者ナリ故ニ此書タル之ヲ各國
ノ言辭ニ譯出スルモ同一ノ意義ヲ有シ同一ノ
勢力ヲ有スベシ何ントナレバ之ヲ人類一般ノ
實驗ニ徴シタレバナリ之レニ反シテ科學ニ定
メタル理由ハ虚擬ノ言語隨意ノ釋義ヲ基礎ト
シ一地一國ニノミ其力ヲ有シ唯文字上ニ於テ
ノミ成立ツ者ニシテ之ヲ他國ノ辭ニ翻出セン

トスル片ハ則チ其用忽チ消滅ニ属ス恰モ夫ノ
 亞弗利加ノ夷民貝売ヲ以テ通貨トスル者其壇
 土ヲ出ル一步ニシテ己レノ蕃族中ニノミ相
 約シテ通貨トスル者按即チ貝売ヲ出シテ外人ト
 貿易セント願フニ方リ忽然トシテ其貧困ナル
 ヲ覺知スルガ如シ

予ヤ茲ニ一言ノ附記ス可キ者アリ即チベンサ
 △手記ノ原書中英國法律ニ就テ論及セル所多
 クシテ予ガ之ヲ削去セル所以ノ者ハ其ノ用唯
 英國ニ關スルニ止マレバナリ然ルニ特別ノ法

律ヲ論題ノ目的トシタル者ニシテ其法律ヲ載
 セザル時ハベンサムノ評論往々其基脚ヲ失フ
 ガ如キ者アル場合ニ於テハ之ヲ明瞭ナラシメ
 ンガ為メニ原書ニハ唯暗ニ指示セルニ過ギガ
 ル者ヲ今此ニ演繹シタル所アリ其或ハ誤謬ヲ
 免レザルアラシ乎是レ予ノ為ス所ニ出レバ以
 テ原著者ヲ尤ム可ラザルナリ蓋シ英國法律ノ
 解シ難キヤ英人ト雖モ法律學士ニアラザルヨ
 リハ之ガ説ヲ為スニ誤謬ナキヲ保ツ能ハズ况
 シヤ英人ニアラザル者ニ於テオヤ其誤謬更ニ

多キヲ免レザル知ル可キナリ

民法論綱緒論終

明治十二年二月十八日版權免許
同 年五月 出版

譯者

鳥田三郎

神奈川縣平民

東京京橋區三間堀丁目番地

出版

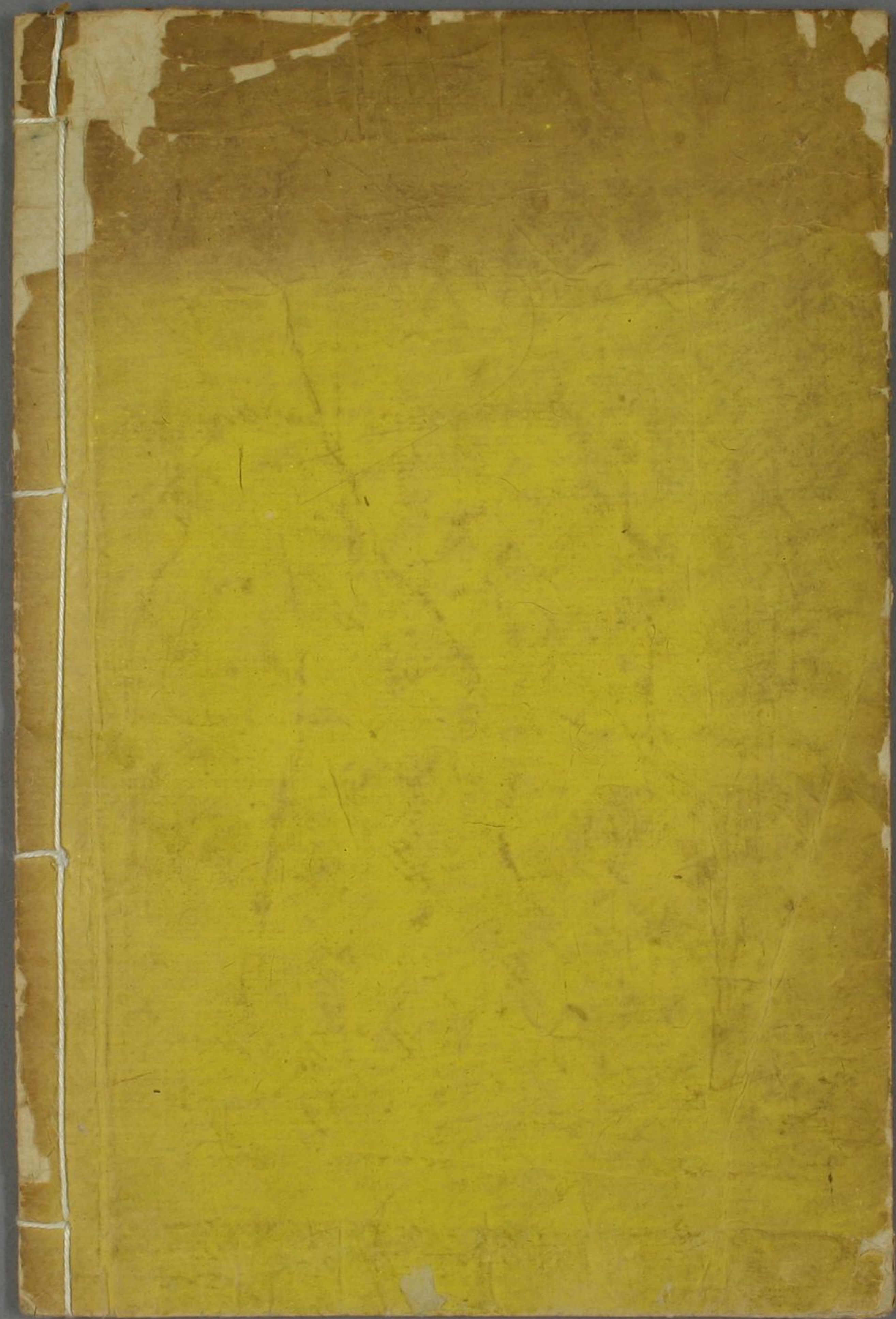
大塚禹吉

同京橋區鎗屋町十二番地

發兌

律書房

同京橋區鎗屋町十二番地



瑞西ヂユモーン原著
日本島田三郎重譯

民法論綱緒論

明治十二年五月刊行